

北村隆憲教授 略歴と業績

[職歴]

- 1991 年 4 月 - 東海大学, 法学部, 講師
- 1994 年 4 月 - 東海大学, 法学部, 助教授
- 2002 年 4 月 - 東海大学, 法学部, 教授
- 2023 年 3 月 - 東海大学定年退職
- 2023 年 4 月 - (現在に至る)東海大学, 客員教授

[専門分野]

法社会学

[書籍]

- 北村隆憲(監訳)(2025)『法のエスノメソドロジー—「生ける秩序」の法社会学』新曜社.
- 北村隆憲(森本郁代・小宮友根・三島聡・サトウ タツヤ・國井恒志との共著)(2023)『裁判員裁判の評議を解剖する—ブラック・ボックスを開く会話分析』日本評論社.
- 北村隆憲(樫田美雄・米田憲市・岡田光弘・曾場尾雅宏との共著)(2023)『法実践 (リーガル・コミュニケーション) の解剖学—ビデオ・エスノグラフィ—から臨床法学へ』晃洋書房.
- 北村隆憲・深谷安子(2018)『看護におけるコミュニケーション・パラダイムの転換—ケアとしてのコミュニケーション』関東学院大学出版会.
- 北村隆憲・深谷安子(監訳)(2010)『患者参加の質的研究—会話分析からみた医療現場のコミュニケーション』医学書院.
- 北村隆憲(訳)(2007)『法廷における“現実”の構築—物語としての裁判』日本評論社.
- Kitamura, Takanori et Wanda Capeller(1998) *Une introduction aux cultures juridiques non occidentales: autour de Masaji Chiba*, Bruylant. (『非西欧社会の法文化』)(仏語).

[論文等]

- 北村隆憲(樫田美雄と共著)(2024)認知症の社会学・序—95 歳認知症女性は、どのようにして季節見当識を示したのか 現象と秩序(21)119-129.

- 北村隆憲(2024)エスノメソドロジー・会話分析と「生ける秩序」の法社会学(監訳者解説)(北村隆憲監訳)『法のエスノメソドロジー—「生ける秩序」の法社会学』(監訳者解説)新曜社.
- 北村隆憲(2024)「エスノメソドロジー・会話分析」による「質的探究」—緊急通報における「法」の達成 (和田仁孝・高橋裕・山田恵子編)『質的探究法社会学』北大路書房.
- 北村隆憲(2024)「法の現場」とその「記述」をめぐって 法社会学 (90) 54-58.
- 北村隆憲・深谷安子・岡部明子・川口港・小山幸代(2024)要介護高齢者のケアとしての日常会話(生活世界コミュニケーション)に関連する要因の検討—基本的属性と社会関係要因に焦点をあてて 老年社会科学 45(4) 315-326.
- 北村隆憲(2023)法実践のIT化と(法)社会学研究 裁判IT化科研ニュースレター(2023年夏創刊号)(1) 2-2 2023年9月30日.
- Kitamura, Takanori, Yasuko Fukaya, Minato Kawaguchi, Meiko Okabe, Sachiyo Koyama(2023)Development of the Life-Worldly Communication Scale to Improve Quality of Life: Daily Conversation as Care for Older Adults. Health Communication (Taylor & Francis) 1-11.
- 北村隆憲(2023)「面接調査」の相互行為分析—調査者と対象者は「紛争経験」をいかに達成するか 法と社会研究 (8) 63-92.
- 北村隆憲(2023)法のエスノメソドロジー(山崎敬一・浜日出夫・小宮友根・田中博子・川島理恵・池田桂子・山崎晶子・池谷のぞみ編)『エスノメソドロジー・会話分析ハンドブック』新曜社 358-369.
- 北村隆憲(2023)裁判官による評議「マネジメント」の一側面—会話資源としての「後ろの位置」における発言(森本郁代・北村隆憲・小宮友根・三島聡・サトウタツヤ・國井恒志編)『裁判員裁判の評議を解剖する—ブラックボックスを開く会話分析』日本評論社 188-206.
- 北村隆憲(2023)評議を「会話参加者の観点」から分析する—評議会話の量的研究と会話分析(森本郁代・北村隆憲・小宮友根・三島聡・サトウタツヤ・國井恒志編)『裁判員裁判の評議を解剖する—ブラックボックスを開く会話分析』日本評論社 60-76.
- 北村隆憲(2023)評議の会話を研究する意義—会話分析のアプローチ(森本郁代・北村隆憲・小宮友根・三島聡・サトウタツヤ・國井恒志編)『裁判員裁判の評議を解剖する—ブラックボックスを開く会話分析』日本評論社 31-59.
- 北村隆憲(2023)交渉を「コミュニケーション」として探究する—「相互行為分析」の交渉学への寄与 *Japan Negotiation Journal*(日本交渉学会学会

誌) 32(1) 1-33.

- 北村隆憲(2023)「裁判への期待／懸念」はいかに語られたか—司法経験に関する面接調査データの「質的研究」とその意義(佐藤岩夫・阿部昌樹・太田勝造編)『現代日本の紛争過程と司法政策—民事紛争全国調査 2016-2020』東京大学出版会 684-702.
- 北村隆憲(2023)法廷尋問のコミュニケーションを可視化する—反対尋問の相互行為分析(樫田美雄・北村隆憲・米田憲一・岡田光弘・曾場尾雅宏編)『法実践(リーガル・コミュニケーション)の解剖学—ビデオ・エスノグラフィーから臨床法学へ』晃洋書房 173-212.
- 北村隆憲(2023)法律相談のコミュニケーションを可視化する—全体構造組織と相互理解の技法(樫田美雄・北村隆憲・米田憲一・岡田光弘・曾場尾雅宏編)『法実践(リーガル・コミュニケーション)の解剖学—ビデオ・エスノグラフィーから臨床法学へ』晃洋書房 115-172.
- 北村隆憲(2023)調停のコミュニケーションを可視化する—メディエーションの相互行為分析(樫田美雄・北村隆憲・米田憲一・岡田光弘・曾場尾雅宏編)『法実践(リーガル・コミュニケーション)の解剖学—ビデオ・エスノグラフィーから臨床法学へ』晃洋書房 67-114.
- 北村隆憲(2023)本書のタイトルとサブ・タイトルについて(樫田美雄・北村隆憲・米田憲一・岡田光弘・曾場尾雅宏著)『法実践(リーガル・コミュニケーション)の解剖学—ビデオ・エスノグラフィーから臨床法学へ』晃洋書房 271-275.
- 北村隆憲(2022)評議における「定式化」とその意義—ファシリテーションの一形式として 法と心理 22(1) 32-38.
- 北村隆憲(2022)エスノメソドロジーによる社会秩序の探究—「法の相互行為分析」(2) 東海法学 (63) 17-58.
- 北村隆憲(2022)「紛争経験」の相互行為分析—面接調査において「トラブル」の事実性はいかに達成されるか 法社会学 (88) 150-178.
- 北村隆憲(2022)法的場面のコミュニケーションを探究する—「法の相互行為分析」(1) 東海法学 (62) 1-25.
- 北村隆憲(2021)「エスノメソドロジー・会話分析」と法社会学—「生ける秩序」としての「法」の経験的探究に向けて 東海法学 (61) 97-125.
- 北村隆憲(2021)紛争経験調査における「質的研究」の意義—エスノメソドロジーからのアプローチ(東京大学社会科学研究所)超高齢社会における紛争経験と司法政策 ディスカッション・ペイパー・シリーズ (7) 1-29.
- 北村隆憲(2020)裁判員評議における発話行為の「類型」と「位置」—「法と言語」研究への相互行為分析からの寄与 法と言語 5 巻 1-24.

- 北村隆憲(2020)「意味」としての法—記号、象徴、物語として法を理解する 東海法学 (59) 47-69.
- 樫田美雄・北村隆憲・米田憲市・岡田光弘(2020)弁護士はいかに相談者の「表情を読む」か—ビデオ・エスノグラフィーによる法的コミュニケーション研究の意義 東海法学 (59) 27-46.
- 岡田光弘・北村隆憲・樫田美雄・米田憲市(2020)ビデオ・エスノグラフィーによる法現象の研究—ハイデガーとデュルケムのモノとしての「法律相談」 東海法学 (58) 19-34.
- 北村隆憲・岡田光弘・米田憲市・樫田美雄(2020)交渉のコミュニケーションを可視化する 東海法学 (58) 1-17.
- Yasuko Fukaya, Kitamura, Takanori, Minato Kawaguchi(2020)Does Everyday Conversation Contribute to Cognitive Functioning? A Comparison of Brain Activity During Task-Oriented and Life-Worldly Communication Using Near-Infrared Spectroscopy *Gerontology and Geriatric Medicine* 6 1-14.
- Yasuko Fukaya, Kitamura, Takanori, Minato Kawaguchi(2019)Development of Life-Worldly Communication Scale for Older Persons: A Pilot Study *Journal of Health and Medical Sciences* 2(4) 552-566.
- 北村隆憲(2019)法律相談のコミュニケーションを分析する—全体構造組織と相互理解の技法 東海法学 (56) 81-129.
- 北村隆憲(2019)調停のコミュニケーションを分析する—非難の連鎖はいかに「管理」されるか 東海法学 (56) 47-80.
- 北村隆憲(2019)裁判官のアイデンティティと実践の諸形式—評議における相互行為資源としての「後ろの位置」 法社会学 (85) 181-208.
- Yasuko Fukaya, Kitamura, Takanori, Ritsuko Wakabayash, Kanako Yamakuma, Mai Keiko, Omoto Mizuki(2018)The Development of the Life-Worldly Communication Scale (LWCS) for Elderly Persons in Geriatric Facilities. *International Journal of Nursing and Health Care Research* 2018(2) 1-10.
- 北村隆憲 (2018)看護コミュニケーション研究の動向 北村隆憲・深谷安子(編著)『看護におけるコミュニケーション・パラダイムの転換』関東学院大学出版会 25-36.
- 北村隆憲 (2018)看護コミュニケーションを相互行為として分析する—タイプⅠとタイプⅡの質的分析 北村隆憲・深谷安子(編著)『看護におけるコミュニケーション・パラダイムの転換』関東学院大学出版会 57-82.
- Fukaya, Yasuko, Kitamura, Takanori, Minato Kawaguchi(2018)Towards a

Conversion of the Nursing Communication Paradigm: A View from the Analysis of Actual Nurse-Elderly Interactions *Advanced Practices in Nursing* 3(1) 1-9.

北村隆憲(2018) エスノメソドロジーと会話分析による法社会学研究の世界 東海法学 (55) 173-228.

Kitamura, Takanori, Yasuko Fukaya, Ritsuko Wakabayashi, Kanako Yamakuma Yamano, Mai Keiko(2018) The Development of the Life-Worldly Communication Scale for Older Adults in Home Care *Annals of Nursing and Primary Care* 1(1) 1-8.

北村隆憲・五十嵐素子・真鍋陸太郎(2017) 航空管制のペアワークにおけるリスク管理—二重のモニターによる相互理解の達成『ワークプレイス・スタディーズ』ハーベスト社 208-226.

北村隆憲(2017) 解釈法社会学とエスノメソドロジー／会話分析 (西田英一・山本顕治編)『振舞いとしての法—知と臨床の法社会学』法律文化社.

北村隆憲(2017) 研究と実践における映像データの可能性『質的心理学研究』(16) 215-217.

Kitamura, Takanori, Yasuko Fukaya(2016) Analysis of Utterances by Older Persons in ‘Life-Worldly’ Communication with Caregivers in Japan *Journal of Nursing and Care* 5(5) 1-10.

北村隆憲(2016) ミディエーションの相互行為分析の試み—エスノメソドロジーと会話分析の視点から 東海法学 (51) 102-168.

北村隆憲(2015) 法社会学 (角田猛之他編)『法文化論の展開—法主体のダイナミクス』信山社 323-324.

北村隆憲(2015) 法と文化 (角田猛之他編)『法文化論の展開—法主体のダイナミクス』信山社 311-322.

北村隆憲(2015) ミディエーションの相互行為分析の試み『桐蔭横浜大学ミディエーション交渉研究所公開研究会報告書』(8) 3-15.

北村隆憲(2013) 反対尋問のビデオ・エスノグラフィー—弾劾と防御の方略とコミュニケーション・トラブル 法学論集(鹿児島大学法学部) 47(2) 239-269.

Fukaya, Yasuko, Takanori Kitamura(2013) Status of Capability ADL and Performance ADL (ADL Gap) in Community Elderly with Disabilities and Development of ADL Gap Self-Efficacy Scale Jean Baptiste Giroux and Charlotte Vallee, eds., *Activities of Daily Living: Performance, Impact on Life Quality and Assistance* Nova Science: New York 97-117.

- 北村隆憲(2013)法の相互行為分析と法実践 質的心理学フォーラム (5) 86-88.
- 北村隆憲(2013)千葉正士博士との対話—千葉正士博士の人と業績(2) 東海法学 (46) 92-72.
- 北村隆憲(2013)「弁護士のアドバイスへの依頼者の拒否と抵抗」の可視化—臨床法学教育における「即時分析」から 法曹養成と臨床教育 (6) 153-157.
- 北村隆憲(2012)誘導尋問に対する証人の「はい/いいえ」を超える返答の帰結—法廷尋問のマイクロ分析 法曹養成と臨床教育 (5) 150-155.
- 北村隆憲(2011)非西欧法の法人類学へ—或る軌跡 千葉正士博士の人と業績 (1) 東海法学 (45) 180-159.
- 北村隆憲(2010)本書の理解をより深めるための会話分析入門(解説) 北村隆憲・深谷安子(監訳)『患者参加の質的研究—会話分析からみた医療現場のコミュニケーション』医学書院 xix-xxviii.
- Yasuko Fukaya, Kitamura, Takanori, Sachiyo Koyama, Yusuke Kimura (2009) Education to promote verbal communication by caregivers in geriatric care facilities *Japan Journal of Nursing Science* 6(2) 91-103.
- 樫田美雄・北村隆憲・岡田光弘・五十嵐素子・宮崎彩子・出口寛文・真鍋陸太郎・藤崎和彦・高山智子・太田能・玉置俊晃・寺嶋吉保・阿部智恵子・島田昭仁・小泉秀樹(2008)高等教育改革の相互行為分析—ビデオ・エスノグラフィー研究の狙いと工学部都市工学演習の実際 大学教育研究ジャーナル 5(5) 93-104.
- 北村隆憲(2007)法科大学院及び法学部における法哲学関連科目に関する実態調査の概要 法哲学年報 (267) 18-31.
- 深谷安子・北村隆憲・木村勇介・小山幸代(2007)介護保険施設種類別による発語時間や声かけ時間の差異並びに発語時間に関連を及ぼす因子の検討 東海大学健康科学部紀要 (13) 33-34.
- 北村隆憲(2006)法学教育から見た教養教育—法と社会の視点から 『法の中の教養・教養の中の法』慶應義塾大学教養研究センター.
- Y. Fukaya, Kitamura, Takanori, S. Koyama, K. Suzuki, H. Noguchi (2006) Educational Interventions for Promoting Verbal Communication with Elderly Clients *Turkish Journal of Geriatrics* (suppl. 1, special issue) 27-27.
- 北村隆憲(2005)「法律キャリア・プランニング」授業におけるマルチメディア教材の製作・利用の試み—法科大学院時代の学部教育の一例として 大

学教育と情報 14(2) 36-38.

北村隆憲(2004)法の物語と紛争の語り 法社会学 (60) 59-75.

北村隆憲(2000)日常生活と法の相互構築—エンゲル教授の解釈主義法社会学 東海法学 (53) 219-225.

北村隆憲(2000)「トラブル」の物語分析—在米日本人に対する面接調査に基づいて 東海法学 (24) 55-91.

Kitamura, Takanori(1998)Entretien avec M. Chaiba masaji, le professeur de la sociologie du droit Takanori et Wanda Capeller *Une introduction aux cultures juridiques non-occidentales* Bruylant, Bruxelles.

Kitamura, Takanori(1998)Une anthropologie juridique du droit non-occidental: dans un sillage Takanori et Wanda Capeller *Une introduction aux cultures juridiques non-occidentales* Bruylant, Bruxelles.

北村隆憲(1993)「物語り」と法社会学 法社会学 (45) 238-242.

北村隆憲(1993)物語記号論と法社会学の界面 東海法学(11) 217-257.

北村隆憲(1992)法記号論と法社会学『法人類学の地平』成文堂.

北村隆憲(1991)法社会学と「物語」の概念 東海法学(7) 71-107.

北村隆憲・千葉正士(1988)法の象徴的機能とガスフィールドの意義 法律時報 60(10) 72-75.

北村隆憲(1987)アルノー(IVRと法哲学者たち(中)) 現代の法哲学者たち 法学セミナー(391) 120-123.

北村隆憲(1987)法文化と法のレトリック 東京都立大学法学会雑誌 28(2) 217-244.

北村隆憲(1986)第1回国際法人類学会の成果(「世界の法社会学」の回顧と展望) 法律時報 58(11) 78-80.

北村隆憲(1985)法の象徴的側面と劇的過程 東京都立大学法学会雑誌 26(2) 495-571.

【翻訳等】

北村隆憲(訳)(2025)ジョン・マンゾウ著「エスノメソドロジー・会話分析」と法社会学研究(北村隆憲監訳)『法のエスノメソドロジー—「生ける秩序」の法社会学』新曜社.

北村隆憲(訳)(2025)ポール・ドリュウ著 反対尋問における証言をめぐる闘い—レイブ裁判の事案(北村隆憲監訳)『法のエスノメソドロジー—「生ける秩序」の法社会学』新曜社.

北村隆憲(訳)(2025)ダグラス・メイナード&ジョン・マンゾウ著 現象としての正義—陪審評議の秩序についての考察(北村隆憲監訳)『法のエスノ

メソドロジー—「生ける秩序」の法社会学』新曜社.

- 北村隆憲・当山紀博(共訳)(2018)ステイシー・バーンズ著「仲裁」のエスノメソ
ドロジー—正義を行い公正さを実演する 東海法学 (55) 112-62.
- 北村隆憲・是永論(共訳)(2018)エリザベス・ストコウ著「成員カテゴリー分析」を
前進させる—体系的分析法の試み 東海法学 (55) 172-114.
- 北村隆憲(監訳)(2017)須永将史・城綾実・牧野遼作(訳) 人間の知と行為の
根本秩序—その協働的・変容的特性(チャールズ・グッドウィン著)
首都大学東京 人文科学研究科 人文学報 社会学 52(513) 35-86.
- 北村隆憲・当山紀博(共訳)(2017)ジョン・マンゾウ著 7 歳の子供に向かってこ
んな質問しないでしょう?—陪審員による実践的推論の使用(上・下)
東海法学 (53・54) 28-4.
- 北村隆憲・当山紀博(訳)(2017)ダグラス・メイナード著「交渉」の会話分析—延
期, 留保, 抑止 東海法学 (54) 128-83.
- 北村隆憲・当山紀博(訳)(2015-2016)ポール・ドリユー著 非難の管理(上)(下)
東海法学 (50) 82-49, (51) 66-34.
- 北村隆憲(訳)(2016)ジョン・F・マンゾウ著 7 歳の子供に向かってこんな質問し
ないでしょう?—陪審員による実践的理論の使用(上) 東海法学 (52)
60-37.
- 北村隆憲・当山紀博(訳)(2015)ポール・ドリユー著 日常会話と法廷尋問にお
ける順番交替組織 東海法学 (49) 132-48.
- 北村隆憲(訳)(2013)レイプ裁判と法廷尋問のマイクロ分析 東海法学 (46) 94-
106.
- 北村隆憲・橋本聡(共訳)(2013)グレゴリー・マトウジアン著 言語・法・社会—ケ
ネディ・スミスのレイプ裁判とレイプ・シールド法の政策的含意 東海
法学 (46) 152-107.
- 北村隆憲(訳)(2013)ボードワン・デュブレ著 実践における「意図(故意)」—エジ
プト刑事裁判のエスノメソドロジー 東海法学 (47) 58-21.
- 北村隆憲(訳)(2010)患者参加とコミュニケーションのプロセスを理解する 北村
隆憲・深谷安子(監訳)『患者参加の質的研究—会話分析からみた
医療現場のコミュニケーション』医学書院 2-27.
- 北村隆憲・木村勇介(共訳)(2010)医療面接における患者参加と患者関与の意
味—分類枠組みの提案 北村隆憲・深谷安子(監訳)『患者参加の
質的研究—会話分析からみた医療現場のコミュニケーション』医学
書院 54-83.
- 北村隆憲・樫田美雄(共訳)(2010)良い医療面接と良くない医療面接—患者の
視点から 北村隆憲・深谷安子(監訳)『患者参加の質的研究—会話

- 分析からみた医療現場のコミュニケーション』医学書院 85-108.
- 北村隆憲(訳)(2010)定式化と開始連鎖における患者参加 北村隆憲・深谷安子(監訳)『患者参加の質的研究—会話分析からみた医療現場のコミュニケーション』医学書院 1411-161.
- 北村隆憲・深谷安子・木村勇介(共訳)(2010)看護師—患者間コミュニケーション—看護師と患者との会話は患者参加にどのような影響を及ぼすか? 北村隆憲・深谷安子(監訳)『患者参加の質的研究—会話分析からみた医療現場のコミュニケーション』医学書院 192-220.
- 北村隆憲(訳)(2010)医療面接への患者参加の構成要素—調査・研究のための概念モデル 北村隆憲・深谷安子(監訳)『患者参加の質的研究—会話分析からみた医療現場のコミュニケーション』医学書院 224-234.
- 北村隆憲・北村弥生(共訳)(2010)チャールズ・グッドウィン著 プロフェッショナル・ヴィジョン—専門職に宿るものの見方 共立女子大学文芸学部紀要 (56) 35-80.
- 北村隆憲・内山安夫(共訳)(2010)マックス・トラバース著 クライアントに有罪答弁をするよう説得すること—『法の現実—刑事弁護士事務所におけるワークとトーク』より(2) 東海法学 (43) 126-91.
- 北村隆憲・橋本聡(共訳)(2010)アンジェラ・ガルシア著 口論なしの紛争解決—調停の相互行為組織はいかにして言い争いを最小化するか 東海法学 (44) 82-33.
- 北村隆憲・内山安夫(共訳)(2009)マックス・トラバース著 “生ける法(Law in Action)”—エスノメソドロジーの視点から 東海法学 (41) 252-223.
- 北村隆憲・内山安夫(共訳)(2009)マックス・トラバース著 「ラディカルな」弁護士の法律事務所という現象—『法の現実—刑事弁護士事務所におけるワークとトーク』より(1) 東海法学 (42) 122-91.
- 北村隆憲・橋本聡(共訳)(2001)デイヴィッド・エンゲル著 損害とアイデンティティー—3つの文化における傷ついた自己 東海法学 (26) 237-266.
- 北村隆憲・橋本聡(共訳)(2000)日常生活のドメインにおける法(上)—コミュニティーと差異の構築 東海法学 (24) 221-254.

〔書評〕

- 北村隆憲(2017) (書評) 林田清明著 『《法と文学》の法理論』法社会学 (83) 234-239.
- 北村隆憲(1997) (書評) Carol J. Greenhouse, Barbara Yngvesson, and David M. Engel *Law and Community in Three American Towns* 法社会学

[講演・学会報告・口頭発表等]

- 北村隆憲 (2024) 対話促進型調停の相互行為分析—Facilitative Mediatim はいかに達成されるか 法と言語学会年次大会 12月7日.
- Kitamura, Takanori (2024) Exploring Interactional Features of Deliberation in Japan's Lay-Judge System: Formulations as Facilitating Practices. (裁判員評議の相互行為上の特徴を探究する—ファシリテーション実践としての定式化) RCSL (国際法社会学会) September 4, Bangor University, North Wales, UK.
- Kitamura, Takanori (2024) Formulating as Facilitating Practices: Some Interactional Features of the Jury Deliberation in the Lay-Judge System in Japan (ファシリテーションとしての「定式化」—裁判員制度の評議の相互行為的特徴) IEMCA (国際エスノメソドロジー・会話分析学会) June 26, Sogang University, Seoul, Korea.
- 北村隆憲 (2024) オンライン法実践と相互行為分析—e 法廷の分析に向けて 裁判 IT 化研究会 共立女子大学 2月19日.
- 北村隆憲 (2023) メディエーション技法スキルアップ講座 (ピア・メディエーション養成講座) ピアメディエーション学会 オンライン 10月28日.
- 北村隆憲 (2023) 裁判員評議のコミュニケーションを分析する: 会話分析から何がわかるか? 法理論研究会定例会 (北海道大学) 10月14日.
- Kitamura, Takanori (2023) Development of a New Training Method for Mediators Using Conversation Analysis: Interaction-Analytic Method for Practitioners (iAMP) (会話分析を用いた訓練手法の開発) RCSL Conference, Lund University, Sweden August 30.
- 北村隆憲 (2023) 「法の現場」とその「記述」をめぐって (ディスカッサント・コメント) 日本法社会学会学術大会 全体シンポジウム「法の理論と法の現場」 5月14日.
- 北村隆憲 (2023) 対話型調停と会話分析—紛争解決のコミュニケーションを可視化する 愛知県司法書士会 会員研修会 (愛知県司法書士会館) 2月11日.
- 北村隆憲 (2022) 法実践の新たな教育手法の開発—ビデオ映像と相互行為分析を用いた試み 法社会学会 (個別報告) 5月21日.
- 北村隆憲 (2022) 調停を「コミュニケーション」として探求する (Part3): 相互行為分析に基づく新たな法実践の教授法の開発 ピアメディエーション研究会 2月18日.

- 北村隆憲 (2022) 調停を「コミュニケーション」として探求する(Part2):相互行為分析のアプローチから ピアメディエーション学会研究会 1月14日.
- 北村隆憲 (2021) 交渉を「コミュニケーション」として探究する—相互行為分析の交渉学への寄与—「第34回日本交渉学会全国大会」基調講演 11月20日.
- 北村隆憲 (2021) 調停を「コミュニケーション」として探求する(Part1):相互行為分析のアプローチから ピアメディエーション学会研究会 11月12日.
- 北村隆憲 (2021) コミュニケーションとして調停を学ぶ 第10回ピアメディエータ養成講座 10月30日.
- 北村隆憲 (2021) 評議における「定式化」とその意義—ファシリテーションの一形式として—第22回法と心理学会シンポジウム「評議のリアリティを探究する—裁判員裁判への会話分析と文化心理学からのアプローチ」10月24日.
- 北村隆憲 (2021) 評議における共通理解の達成と技法 日本法社会学会学術大会 5月23日.
- 北村隆憲 (2020) 裁判員評議における相互理解の秩序と裁判官の相互行為役割 科学研究費公開研究会 9月.
- 北村隆憲 (2020) 「相互行為における権利と自由」:ディスカッサント・コメント 日本法社会学会学術大会ミニシンポジウム 8月.
- 北村隆憲 (2019) 紛争解決のコミュニケーションを可視化する—交渉、相談、調停、法利用 鹿児島大学司法政策研究センター ロイヤリング実践セミナー 8月30日.
- 北村隆憲 (2019) 法的コミュニケーション分析の最前線—裁判員評議の「ブラックボックス」を可視化する 第二東京弁護士会仲裁センター運営委員主催弁護士研修 6月10日.
- 北村隆憲 (2019) 対話型調停における「理論」と「実践」—「専門家知識」と「定式化」の機能 日本法社会学会学術大会 5月12日.
- 北村隆憲 (2019) 評議における実践的推論の諸形式—裁判員による物的理解と評議スタイル 日本法社会学会学術大会 5月11日.
- 北村隆憲 (2019) 評議コミュニケーションの法言語学への相互行為論からの寄与—「法の計量言語学」と「法の相互行為分析」 法と言語学会 4月21日.
- 北村隆憲 (2018) チャールズ・グッドウィンと「法」—「プロフェッショナル・ヴィジョン」の法社会学 日本エスノメソドロジー・会話分析研究会 10月28日.

- 北村隆憲 (2018) 裁判員は「常識」を使ってどのように議論をするのか—実践的推論の構造 法と心理学会 第 19 回学術大会 10 月 7 日.
- 北村隆憲 (2018) 法律相談の相互行為分析と実践への示唆 日本法社会学会学術大会 5 月 28 日.
- 北村隆憲 (2018) 対話的法実践の質的研究—調停と評議の相互行為分析 日本法社会学会 5 月 27 日.
- Kitamura, Takanori (2017) Dilemma of Advice and Mediators' Practices of implicit Advice-Giving: An Interaction Analysis (調停における助言のジレンマ) Asian Law and Society Conference, December 16, National Chiao Tung University, Taiwan.
- 北村隆憲 (2017) 対話型調停における「助言のジレンマ」と「エンパワメント」—ミディエーションの相互行為分析 日本社会学会大会 11 月.
- 北村隆憲 (2017) 斡旋・調停「振り返り」の試行的分析 第 2 東京弁護士会仲裁センター 2 月.
- Kitamura, Takanori (2016) How Professional Judges Instruct Lay-Judges to Establish 'Facts' Law and Society Association Annual Meeting, June 4, New Orleans, U. S.
- Kitamura, Takanori (2016) How Professional Judges Demonstrate 'Facts' During Mixed Jury Deliberation: A Multi-Modal Analysis of the Embodied Actions of Professional Judges in the Saiban-in Court Asian Law and Society Conference, September 24, National University of Singapore.
- 北村隆憲 (2015) ミディエーションの相互行為分析 桐蔭横浜大学ミディエーション交渉研究所公開研究会 桐蔭横浜大学 3 月.
- 北村隆憲 (2014) 評議における裁判官の発話の位置とデザイン 法社会学会ミニシンポジウム 5 月.
- 北村隆憲 (2014) エスノメソドロジー研究で何が分析できるか—会話分析によるデータ分析を通じて 老年看護学分野における講演会 北里大学 2 月.
- Kitamura, Takanori (2013) Statistical Analysis of Relationship between Caregivers Type II Speech and Elderly Utterances in Geriatric Facilities in Japan Lisbon International Nursing Conference, September.
- Kitamura, Takanori (2013) The Use of Next Positions by Professional Judges as an Interactional Resource: A Video Analysis of a Mock Deliberation Under Lay Judge System in Japan IIEMLA Conference, August 8.

Wilfrid Laurier University, Canada.

- 北村隆憲 (2013) 法学臨床教育におけるビデオデータの即時分析—弁護士の
アドバイスへの依頼者の拒否と抵抗 臨床法学教育学会第6回大
会 4月.
- Kitamura, Takanori (2013) A Micro-Analysis of a Mock Deliberation Under the
Lay Judge System in Japan: The Use of “Next” Positions by
Professional Judges as an Interactional Resource East Asian Law
and Society Conference, March.
- 北村隆憲 (2013) 相互行為における『法的アクセス』—会話分析から見た法的
ディスコース 司法アクセス学会大会 2月.
- 北村隆憲 (2013) セミナー:ビデオ・エスノグラフィーの初歩(質的心理学研究法
セミナー) 質的心理学会主催 1月26日.
- 北村隆憲 (2012) 相互行為上の資源としての「次の」発話位置における裁判官
の発言—模擬評議場面のマイクロ分析 法と言語学会学術大会 12月.
- 北村隆憲 (2012) 航空管制研修におけるレーダー画面の機能に関する研究
日本社会学会 11月.
- 北村隆憲 (2012) 法科大学院教育における反対尋問のビデオ分析—「はい/い
いえ」を超える返答によるトラブルとその帰結 日本社会学会 11月.
- Kitamura, Takanori (2012) An Interactional Analysis of Legal Consultations
Between Lawyers and Clients in Japan International Conference on
Law and Society, May 16.
- 北村隆憲 (2012) 誘導尋問に対する証人の「はい/いいえ」を超える返答の帰結
—法的尋問のマイクロ分析 臨床法学教育学会 4月.
- 北村隆憲 (2012) 法専門職の相互行為知識と評議における知識系・アイデンテ
ィティービデオデータによる反対尋問と陪審評議の分析を素材に
日本エスノメソドロジー・会話分析研究学会春の大会 3月.
- 北村隆憲 (2012) 裁判、陪審、紛争解決—Talk in Action 制度的場面における
エスノメソドロジー・会話分析研究会 3月.
- 北村隆憲 (2011) Change in Speaking Time of Elderly People Who Require
Facility Care When Social Communication From Staff is Increased
USM International Nursing Conference 6月.
- 北村隆憲 (2011) 制度的コンサルテーションの相互行為分析—法律相談と医
療面接 日本法社会学会学術大会ミニシンポジウム「法のエスノメ
ソロジー研究の新展開」 5月.
- 北村隆憲 (2010) 介護認定調査のビデオ・エスノグラフィー 保健医療社会学
会学術大会、ラウンドテーブル「ビデオ・エスノグラフィーの可能性—

- ビデオを用いたコミュニケーション分析の可能性を探る」 5 月.
- 北村隆憲 (2009) 分析と実践とのダイナミクスの可能性 第五回保健医療社会学会大会 5 月.
- 北村隆憲 (2009) 分析と実践とを結ぶ質的研究に向けて—ビデオ・エスノグラフィーによる介護認定過程の研究 日本保健医療社会学会大会 5 月.
- 北村隆憲 (2008) システム事故のエスノメソドロジー 平成 20 年度 TFOS(航空運航システム研究会) 年次シンポジウム : パネルディスカッション「社会安全のあり方 Part2」 12 月.
- 北村隆憲 (2008) 要介護度決定過程の質的研究—その趣旨と概要 日本保健医療社会学会 5 月.
- 北村隆憲 (2008) 介護保険認定調査場面のダイナミズム—会話の特徴による確認 日本保健医療社会学会 5 月.
- 北村隆憲 (2008) 介護認定調査活動における参与枠組みの諸形式 日本保健医療社会学会 5 月.
- Kitamura, Takanori (2007) Variations in Staff Talk-Time and Resident Talk-Time in Nursing-Care Facilities Type, and the Factors Affecting Resident Talk-Time(「介護スタッフと老人被介護者との会話時間の変異とその要因」) 第 1 回日韓地域看護学会 11 月, ソウル.
- 北村隆憲 (2007) 裁判員はどのように判断をするのか? 日本犯罪社会学会大会 10 月.
- 北村隆憲 (2007) 裁判員はどのようにして判断を行うのか?—米国の経験科学的陪審研究と「物語」の視点 日本犯罪社会学会第 34 回大会 10 月.
- 北村隆憲 (2007) Co-Constructing Consent in Investigation: A Single Case Analysis of the Certifying Investigation of the Long-Term Care Insurance System in Japan Law and Society Association and Committee on Sociology of Law, July.
- 北村隆憲 (2006) 法科大学院及び法学部における法哲学等科目に関する実態調査 日本法哲学会学術大会 11 月.
- 北村隆憲 (2006) Effectiveness of Educational Intervention for Promoting Verbal Communication with Elderly Clients Geriatrics 2006, International Congress of Elderly Health, April 4, Istanbul, Turkey.
- 北村隆憲 (2006) Effectiveness of Educational Intervention for Promoting Verbal Communication with Elderly Clients(「施設老人看護における言語コミュニケーション促進のための教育介入の有効性」). International Congress of Elderly Health(国際老人看護学会) 4 月.

- 北村隆憲 (2006) 法学教育からみた教養教育—法と社会の視点から 慶応大学、平成 17 年度文科省私立大学学術研究高度化推進事業、学術フロンティア推進事業「超表象デジタル研究」コンテンツ研究ユニット 温故知新型日本の教養研究グループ 招聘講演会 3 月.
- 北村隆憲 (2005) 法律キャリア・プランニング授業の実践 大学情報化全国大会 9 月.
- 北村隆憲 (2003) 紛争の語りと法 日本法社会学会 5 月.
- 北村隆憲 (2002) Case Studies from Japan The First Joint Meeting of the Law and Society Association and the Canadian Law and Society Association, May 30, Vancouver, British Columbia.
- 北村隆憲 (2001) Stories of Japanese Living in the US Law and Society Conference (トラブル物語分析から見た法の語りについて) 世界社会学会 法社会学分科会 シンポジウム「Stories from the Field」 7 月 2 日.
- 北村隆憲 (2001) 人々のトラブル物語における法意識と法文化—法文化概念把握の「規範的パラダイム」と「解釈的パラダイム」 日本法社会学会 学術大会・シンポジウム「法と文化」におけるパネリスト報告 5 月 12 日.
- 北村隆憲 (2000) 日本における権利と権利意識 「権利と権利意識」ラウンドテーブル(チェンマイ) 6 月.
- 北村隆憲 (2000) 在米日本人の法意識—「トラブル」の構造分析の試み 日本法社会学会 5 月 13 日.
- 北村隆憲 (1999) Stories of Living in a Foreign Country: A Narrative Analysis of the Legal Consciousness of Japanese in America (外国に住むことの語り—在米邦人の法意識の物語分析) アメリカ「法と社会」学会 シカゴ大会 5 月 28 日.
- 北村隆憲 (1993) 法的ディスコースの概念 日本法社会学会 ミニシンポジウム「法社会学のフロンティア(3)」第一分科会ディスカッサント報告.

上記以降の最新の業績については、「リサーチマップ」を参照してください:

https://researchmap.jp/Takanori_Kitamura

